

圏外のアンテナ

[草食男子]の巻

何度か一緒に仕事をしたNくんから、メールがあった。彼は広告会社で営業を担当する、草食系男子。

新規の仕事の予算規模、オンエア時期などが書かれたメールの最後に、さらりと「社長は女性の方で、元は男性の方です」という一文が、添えられていた。

目をパチクリさせたわたしは、思わずパソコンの画面に、がぶり寄った。

早い話、生まれた時は男だったが、性転換して女性になった人が、クライアントの社長だということだ。

今まで大勢の社長さんにお会いしたが、想定外のケースに、なぜか興奮。

翌週のスタッフ打ち合わせは、みんなが我先に、はるな愛ちゃんと仕事をした体験談やら、タイのニューハーフショーでの見聞やらを、しゃべりたがった。

当然わたしも、普段は出さない方向のアイデアを発表して、受けを狙う。

しかしNくんは違った。

実はわたしは日頃から、ガツガツお得意先に食い込んで行かないNくんを、少し物足りなく感じていた。

だがその時の彼は、性別を根拠に、他人をちやかし揶揄（やゆ）する言葉を、一切口にせず、孤峰のごとく屹立（きつりつ）して、その場に存在していた。

「今年の担任は女の先生かあ〜。ついてな〜い」

「あそこの家では、お父さんが、子供の弁当を作るんだって。変なの」

「女のコピーライターなんか、大切な我が社の広告は任せられんね」

ジェンダーによる偏見は人の世を生きにくくする、悪しき石つぶてである。

いつもと同じだったNくん…。ついつい、はしゃいでしまったわたし…。

わかっていることと、行動することは違う。

頼りなさげな草食男子、やる時はやる！



早くも夏草が生い茂る、線路沿いのフェンス

=2013年7月23日掲載=